第19号
3月20日（火）
広報委員長　木下　豊
広報委員　安財貴久男
塩尻　利一
内山　英行
吉田　健二
奥田　亮

小布施まちづくりボイス

E-mail: kouryuu@town.obuse.nagano.jp　HP：http://www.town.obuse.nagano.jp/

発　行　小布施まちづくり委員会
会　長　木下　豊
事務局　小布施町役場
企画政策課　定住交流係
Tel.026-214-9102
編　集　小布施まちづくり委員会
広報委員会
2008（平成20）年12月18日創刊
2018（平成30）年3月20日第19号
©小布施まちづくり委員会

第3回「小布施まちづくり語らい座」開催

12月1日（金）　於 公民館講堂

講　師　**金田功子**さん　高井鴻山記念館館長

テーマ　**高井鴻山先生と葛飾北斎さんから学んだこと**

〝鴻山さん、北斎さん〟と二人を「さん」付けでお呼びになる金田講師の、二人に対する深い敬愛の情が感じ取れる中から講演が始まった。高井鴻山記念館館長といえば、即金田さんの名前が浮かぶように、今日の小布施にあって金田功子さんの存在はとてつもなく大きく、なくてはならないお一人である。その金田功子さんを「第3回語らい座」の講師にお招きしての講演会には、60人を優に上回る聴衆が参集してくれた。一時間余に亘り語ってくれた「小布施鴻山、北斎を学ぶ」講演は、あまたの知識と経験談を含めて、実に多岐に亘る内容であった。

特産のクリをはじめ各種農作物が収穫できる恵まれた自然環境の下で発展した文化の町としての小布施、江戸時代に〝小布施栗〟というブランド品の誕生もみている。さらには、谷街道、谷脇街道の交差点という地の利を生かした要衝の地としての立場をも活用して一六二五年からは「六斎市」が開催されるようになり、その後の小布施町発展の大きな礎となった。

鴻山と北斎の出会いから始まった二人の交流は北斎80歳代に入ってからのことであり、幸いにして豪農商の家に生まれた鴻山のおもてなしを、多としたであろう北斎による再三に亘っての小布施来訪により大いに深まった。この辺りのニュアンスを、金田講師はずいぶんと遠慮がちにお話されたため、筆者が勝手に忖度して紹介すれば、二人の交流に関してまとめていただければ優に一冊の本に仕上がることは間違いない。

北斎館創設のほぼ10年前、モスクワとレニングラードで開催された北斎展が契機となって、開催10年後には小布施町に北斎館が創設された。鴻山と北斎の出会いとその後の交友関係が発端となって40年ほど前の北斎館建設につながった事実に照らしてみるとき、鴻山の見識の確かさをあらためて強く意識させられる。さらに大きく飛躍するが、鴻山と北斎の交友関係は今日小布施にある〝まちづくり〟のきっかけにもなっているのではないだろうか？

小布施の歴史を学ぶには、鴻山の生き方と北斎度々の来訪の背景を探ることによって今後さらに明らかになっていくであろう。ご自身曰く「自分はまだまだ研究途上にあり、知らないことも多い。さらに研鑽を積んでいきたい」。鴻山の生き様を今日実践されているお一人である。

（文責：内山英行）

講演＋意見交換＋交流～先輩のみなさんをお迎えして～

小布施まちづくり語らい座

いままでを楽しく学びこれからを自由に語り合う場

第4回講師 **桜井昌季**さん

平成30年 **5月11日**（金）18時30分～（受付18時）
小布施町**公民館講堂**（町役場3階）
参加無料（予約不要）　交流会参加＝2,000円（要予約）

二百余年の歴史をつなぐ桜井甘精堂の九代目当主として、老舗の経営を担う一方で、桜井さんは、文化と産業の若きリーダーとして、小布施のまちづくりを先導しています。
桜井さんが日々の「現場」で経営者として、小布施人として、実感し考えているお話を聴くことで、わたしたちの暮らしと働きの舞台である小布施のいまとこれからについて、語り合いましょう。

【お問合せご予約】
小布施まちづくり委員会事務局（小布施町役場企画政策課内）
Tel：026-214-9102　Fax：026-247-3113
E-mail: kouryuu@town.obuse.nagano.jp

小布施という舞台の主役は生活者。「主役の幸福」が原点であり目的。

小布施まちづくり委員会 会長　木下　豊

小布施を一つの舞台に例えるならば、この舞台の主役はわたしたち生活者です。生活者には住民に加えて、小布施で働いている方も含まれます。外来のお客様は大切な方々ですが、小布施という舞台の主役は、わたしたち生活者です。そして、この舞台で行われるすべてのものごとは、行政の事業も民間企業の仕事もまちづくりの活動も、最終目的は「主役である生活者の幸福」であると思います。

主役である生活者が幸福感をもって生き生きと暮らし、働いていれば、そうした毎日の結果として、企業の利益も、来訪者の数や観光収入も、ゆるやかであっても年輪のように毎年確かに、伸びてゆくのが自然の道理だと思います。「主役は生活者」という視点から考えると、わたしたちがまず考えたいのは、小布施に生まれ育った子どもたちが、「いずれ小布施に帰って来たい」と思える家庭や町になることだと思います。この土地の欠点も長所も知る主役の子どもたちがそっぽを向くような土地で、新規の移住者が安定的に増えてゆくことは、考えにくいからです。

小布施まちづくり委員会は、満十年になりました。これからも、「主役である生活者の幸福」という坂の上の太陽を目指して、各部会の活動を楽しみながら、みんなで歩んでいきたいと思います。この思いに共感していただける方でしたら、どなたも歓迎しますので、仲間になってくださいね。

小布施まちづくり委員会 発足10年に寄せて

小布施町 町長　市村　良三

10年という節目を迎えられ、心よりお慶びを申し上げます。また、日頃の委員の皆さんの熱心なまちづくり活動に敬意を表するとともに、感謝を申し上げます。

「協働と交流のまちづくり」を小布施まちづくりの第2ステージとして、特に町民の皆さんや町内企業、大学等専門機関、志の高い外部企業との協働に力を入れ推進してまいりました。その町民の皆さんとの協働の仕組みの一つが「小布施まちづくり委員会」であります。第四次町総合計画後期基本計画策定の際、「協働のまちづくり懇話会」を立ち上げ、「小布施町のために何を優先して行うべきか、町民一人ひとり何ができるか」などまちづくりへの熱い議論が交わされ、「町民会議」の創設が提言されました。その後、町民会議設立検討委員会で検討され、小布施まちづくり委員会が発足いたしました。発足後、各部会の活動の中から、タクシー利用補助による移動支援や生ごみの循環による元気野菜作りなど、7つのご提言をいただきました。これらの多くは、単なる提言だけでなく委員の皆さん自らが取り組まれている点に大きな意義があります。町民の皆さんと行政がお互いの役割と責任を自覚し、共通の目標に向けて協力し合っていく協働は、今後のまちづくりにも欠かすことのできない大事な要素であることに間違いありません。小布施のまちづくりの原動力は、主体的に自分たちの〝まち〟をつくっていく、まさに〝町民力〟であると確信しておりますし、まちづくり委員会はその証でありましょう。

「まちづくりボイス」に見る 小布施まちづくり委員会10年記録

第一期　平成20年～平成21年

提言第1号：青パトの効果的な活用に関する提言
- 小千谷市の震度七の地震災害地視察
- 私たちの防災標語とマニュアル作成
- 広報委員会 ボイス作成
- 小布施ブランドって何?

提言第2号：可燃ごみを減らし堆肥化するための提言
堆肥化による地域内循環
- エコイベントを実施「パレット木枠」
- 町のグループに活動データや写真提供の呼びかけ

提言第3号：千曲川ハイウェイミュージアムの有効活用に関する提言
- 絵手紙展示の提案

提言第4号：「タクシー利用補助券」による高齢者の移動支援のための提言
- 絵てがみフェスタ

第二期　平成22年～平成23年

- タクシー利用補助券
- 防災マニュアル防災標語町民へ配布
- あなたも私も小布施人　海外からいらして小布施にお住いの皆様　あなたも私も小布施町へ

提言第5号：千曲川ハイウェイミュージアムの有効活用に向けた提案の募集と選定に関する提言
- Bier Abent（ビア・アーベント）開催
- 多文化交流
- 映画「降りてゆく生き方」上映

第三期　平成24年～平成25年

提言第6号：生ごみの大きな循環と小さな循環による元気野菜つくりの提案
- 安全と安心を考える 防災グッズ体験　手作りアルミ缶コンロ
- 吉田俊通先生講演「生ごみリサイクルで元気野菜作り食改善」

今後も一層のご発展を

小布施町議会 議長　関　悦子

発足以来、「住民の声を集約し、住民の知恵や力をまちづくりに活かしていくために様々な人が情報を共有し、自由に意見を交わしながらまちづくりを考える場」とし、各分野で活発に活動されていますことに敬意を表し、心から感謝を申し上げます。

小布施まちづくり委員会発足10周年、おめでとうございます。

結びに、10年後、20年後の小布施町を見据え、町の若い方にも加わって頂きながら活発な活動にご期待申し上げますとともに、まちづくり委員会の更なるご発展を祈念申し上げご挨拶といたします。

さて、まちづくり委員会が発足されて早々に提案された第1号として、「子どもたちの安心・安全を見守るため、青色パトに音響機材などを設置ほしい」というものでした。

町では提案を受け音響装置を設置し、以来、毎日青パトから流れる「いかのおすし」は、いつの間にか、日々の生活のリズムとして溶け込み、町中で子どもたちの安全に配慮するようになっています。

このことは、一つの皆様方の取り組みの大きな成果であり、数々の施策に対して、自ら活動し取り組む姿勢には力強さを感じます。

まちづくり委員会の皆様方の今後一層のご発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。

まちづくり委員会10年に寄せて

小布施町教育委員会 教育長　中島　聰

協働のまちづくりの場「小布施まちづくり委員会」誕生から10年の節目を迎えられましたことを心よりお慶びを申し上げますとともに、日頃の委員の皆さんのまちづくりに対するご尽力に感謝を申し上げます。

多様なテーマのもと町民の皆さんが主体的に地域のことについて考え、様々な立場の方々が協働して知恵と力を出し合いながらまちづくりを実践して来られました。特に私どもといたしましては、共育を考える部会の皆さんを中心に検討され平成26年に町に提出いただいた「コミュニティスクール導入に向けた提言」を重く受け止め、慎重に検討を重ねた結果、昨年から「小布施学園コミュニティスクール運営委員会」を立ち上げ実行に移しています。「園・学校版まちづくり委員会」とも言えるこのコミュニティスクール運営委員会は、保育園、こども園、小学校、中学校ごとに小委員会を設け、保育士や教職員と町民の皆さんとが一緒になって連携協力しながら、より良い園・学校の運営や子どもたちの健全育成につながる活動を推進していただいています。まちづくり委員会同様、コミュニティスクール運営委員会の活動も活発化させて行きたいと考えています。

最後になりますが、まちづくり委員会の更なるご発展と、委員の皆さんの一層のご活躍を祈念申し上げ、ごあいさつといたします。

第四期　平成26年～平成27年

提言第7号：コミュニティスクール導入のための提言

- サバ飯の極意、伝授します
- 定住促進を考える部会発足
- 元気野菜作りにチャレンジ
- 健康&循環型社会に向けて　町中に菌ちゃん元気野菜を
- アーベント「若者会議」に参加
- 水餃子とトムヤムクンを楽しむ会
- 交流から定住・移住へ
- ミュージアムの活用法が決定しました
- 日本一いい学校
- ボルダリング施設への再生
- 「ひとづくり」「まちづくり」のためのテーブル
- 栗ガ丘小学校の元気な児童と一緒に生ごみたい肥化！
- 日めくり健康カレンダー　放射能測定
- 千曲川ハイウェイミュージアムプロポーザル
- 共育を考える部会 共育（教育）はまちづくりの原点

第五期　平成28年～平成29年

- 六斎市で防災寸劇
- 青パト見守り隊の募集
- 避難訓練のためのデスクワークショップ
- 健康配慮先進地に向けて
- 菌ちゃん農園野菜まつり・菌ちゃん元気野菜を作ろう！
- 介護施設訪問
- 人形劇　認知症対策
- 餅つきとミニ門松づくり　世代間交流
- ビア・アーベント「忘れない3・11」
- 大船渡潮騒クルーズ
- まちづくり語らい座　1 市村良三町長／2小山洋史さん
- 「日本一いい学校・幼稚園・保育園とは」
- 口頭詩募集
- 「定住促進」課題の話し合い始まる
- 定住促進に向けて具体的な動きを　定住部会 視察ねぱ
- 定住促進を考える部会 活動報告　提言について

安全を考える部会　部会長　塩尻利一

10 周年を振り返って「防犯と防災を検討、どのように推進したか…」

安全・安心のまちづくり

◆提言第 1 号　青パトの効果的な活用
平成20(2008)年

・「イカのおすし♪」、小学生の下校時に町内同報告無線放送
・パトロール推進中　有資格者　6 名　2 回／毎月

青パト

◆災害地調査・防災センター 視察　のちに行政担当者と懇談

・新潟県小千谷市の震度 7 の地震災害地視察
・長野市消防局（防災センター）施設調査研修
・国土交通省　信州北部の山岳河川崩壊の予測
・小布施町と中野市にあった遠洞湖について調査

◆平成 22 年　28 小布施町自治会に呼びかけ
「助け合いマップ・要避難」ルール開始
現在 27 自治会で推進中

◆防災寸劇　六斎市ステージにて

・救命・応急手当
・AED
・小布施分署と協働救急アピール
・避難生活訓練用の
子供たちの種火づくり

◆防災技術調査　信州大学工学部建築科（木造住宅耐震設計）

・住宅耐震講習会開催　町が公会堂 17 修繕費補助

◇防災用語　「私たちの防災標語とマニュアル」　全戸配布
・防災標語　心がけよう 4 題　安否確認 171
・私たちの防災マニュアル　平常時・発災時・避難生活

◇防災サバイバルグッズ
・楽しむ防災グッズつくり
・いつでも家庭にある材料を使って（折り畳み椅子トイレ・瓶ランタン・サバイバルめしサラダ油サバ缶コンロ・新聞紙や再生牛乳パックのスリッパビニール袋で簡易防寒着など）
平成 30 年度　継続事業

◇実践型講座　地域の防災力知識向上研修　避難ゲームなど
・長野県危機管理課 出前講座　町健康福祉センターにて
・長野県教育委員会「地域と防災」講習会参加　県教育センターにて
・長野県男女共同参画事業　女性の防災講座　諏訪市にて
・小布施町教育委員会　公民館長講演・指導
・小布施町社会福祉協議会　災害防災ボランティア訓練参加
平成 30 年度　継続事業

交流を考える部会　部会長　芋川恵子

部員世代交代の時

10年が過ぎ、振り返ってみると、冬の食を通じての異文化交流体験、ビアアーベント・夏のスイカ割とお絵描大会、年末の餅つき大会と楽しみながらやってきました。

交流部会のメンバーは楽しみ上手だなと思います。何かやるには、まずやっている人自身が楽しくないと続かないと思います。だから続いてきたのかなと思っています。

しかしながら、メンバーはスタート時の委員がほとんどです。皆さん一生懸命やっていますが、10年もやっていると多少マンネリ化しているのかな?というところでしょうか?

今までやってきたイベントは、おかげさまで好評ですので継続していきますが、新しいスタートに向けて、交流部会としては積極的に新会員、特に若い人たちに入会してもらい、新しい感覚で会の運営をしていかねばと思っています。

今まで東北大震災支援ということで7回のビアアーベントをやってきましたが、一応昨年で目的を果たしたということで終了いたしました。せっかく続いたので今年もやってほしいという声がありますので、今年は町民が夏のイベントとして楽しむことを目的にやれたらと考えています。そのイベントの計画段階から若い人たちが参加し、意見、希望を言い合って作り上げていく。そん

ビア・アーベント

な感覚でスタート・実行できたらいいなと考えています。

藤岡牧夫美術館とのコラボで開催している夏の「スイカ割とお絵描き大会」、年末の「餅つき大会」も好評ですので楽しみながら継続していくつもりです。

冬の定番となっている食を通じての異文化交流も楽しみの一つです。

今後は他の部会と協力し合って、まちづくり委員会の共通の課題である定住促進につながるようなイベントを開催していけたらと思っています。

スイカ割りとお絵描き大会

福祉を考える部会　部会長　花村一三

10年を振り返って

福祉を考える部会も10年、細々ではありますが活動を継続してきました。今回はこの10年を振り返り活動内容をご報告させて頂き、今後の部会や委員会の活動に多くの方にご参加いただければと思います。

まず発足時の部会のメンバーは、各種関係団体に所属されている方から一般の主婦の方まで、様々な方が所属されていらっしゃいました。その為、部会では小布施町で利用できる福祉サービスはどんなものがあるのか、町の担当者や様々な資料を基に確認する事からスタートしました。ご存知の通り高齢者に対する介護保険をはじめとしたサービスは充実しているのですが、利用するためには介護認定を受け要支援や要介護の認定を受けていることが必要になります。しかし高齢者の中には、医療機関への通院や買い物に行く手段を持っていない方が多くいらっしゃる事を聞いていました。日本各地でワゴン車などを利用してデマンドバスを運行している事例を資料などにより検証を行い、タクシー会社の方にもご参加いただき町内の実情を確認しました。また小布施町では浪漫号やワゴン車を用いて規定コースでの運行試験を行っていましたので、利用状況などの結果を確認させて頂きました。やはり利用者は玄関から玄関への便利で低価格なサービスを望まれていらっしゃるようです。デマンドバスではその運営やバスの維持に高額な費用が掛かってしまうことになることが分かりました。結果的にはタクシー券の発券を町に提言し、実現にいたりました。

次に取り組んだテーマは、高齢者の居場所についてでした。まずは中野市に新設された特別養護老人ホームや町内の認知症老人グループホームなどの施設を見学しました。見学された部会員の中には、新しい施設ということもあり「将来、入所したい」と言われる方が多かったのが印象的でした。しかし全ての高齢者が施設入所できるのではなく、住み慣れた環境の中でいかに居場所を作っていくかが次の課題となりました。

認知症人形劇

集える場所の確保などは十分なのか？それに対する支援はあるのか？などを検証し、集いの場所については公会堂や公民館、コミュニティーセンターなどで、町や社会福祉協議会などで支援している活動が既にありました。部会員の中から「町内にある温泉施設は利用できないのか？温泉もあるし多くの方が集まるきっかけとなるのではないか」との意見が出ました。早速、温泉施設の経営者にご参加いただき趣旨説明をしたところ、空きスペースがあるので入浴料をお支払いいただければ、スペースを利用して頂きゲームをしたり、送迎も可能とのお話を頂きました。部会では更に地域性のある方法は無いかを探り、空き家等を利用した活動はどうか話し合いました。その話し合いの場として、町内にある、昔空き家だったスペースを活動の場に改修した家をお借りしました。この様な空間をオープン化し、幼児や子育て世代の親から高齢者までの様々な世代が触れ合える環境や、時には観光客も立ち寄れるような場所が欲しいとの意見にまとまりました。その為には場所（空き家）や管理者が必要となり、直ちにスタートする事が出来ない現状があります。

平成27年度末にはアンケート調査を実施し、福祉や障がい、生活困窮などに関するアンケート調査を実施しました。多くの意見が寄せられ、役場をはじめとした関係機関や議員さんに共有をさせて頂きました。

この様に地道な活動ですが、今後何らかの結果を示せるように継続して行ければと考えております。この様な活動にご理解いただき、1人でも多くの方に参加して頂ける部会にしていければと思います。

環境を考える部会　部会長　工藤陽輔

部会員の声を皆様にお伝えします

環境を考える部会では、これまで生ごみ堆肥化による生ごみ減量を行ってきましたが、ここ数年はさらに、菌ちゃんによる土作り、元気野菜の普及、食育活動まで発展してきました。最近は部員も増え、活発化してきております。

今回は部会員の声を皆様にお伝えします。

※

私が環境を考える部会に入会したのは、生ごみたい肥による土づくりワークショップに参加したことがきっかけです。最初は難しいかな?と思っていましたが、誰にでもできて、何よりとても面白いものでした。

生ごみを入れた畑が、微生物―菌ちゃん―の活躍でふっくら柔らかく、適度に湿度はあるのにサラッとしている、不思議な土の触り心地に変わっていくのです。こんな土でまずい野菜が育つわけがない！　そんな予感に満ちた土です。

実際、皆で人参を収穫した際の、畑いっぱいに広がった甘い匂いと美味しさは格別なものでした。

自分の畑でも土づくりをしてみましたが、より甘く育ったように思いますし、何より虫の食害が減った事に驚きました。今まで防虫ネットをかけても虫を避けきれなかった小松菜が、ほとんど被害にあわず元気に育ちました（理由が気になった方、部会に遊びに来て下さいね）。

町にとって不要な生ごみを土に戻し、菌ちゃんに分解してもらう事で土を良い状態にする。そしてその土で育てた野菜は、住む人の体を健康にする。

環境を考える部会では、このサイクルこそ小布施の未来に、とりわけ子供たちの健康にとって大事なテーマと考え、生ごみたい肥での土づくりを広める活動を今後とも行ってまいります。

（髙津亜矢子）

※

私は環境を考える部会に平成29年8月から参加しました。入部する前から生ごみたい肥を推奨されている吉田俊道先生の講演会や菌ちゃんの土づくりの実演に参加してきましたが、土に入れた生ごみが菌ちゃんによって分解されることに驚き、菌ちゃんの力強さを感じました。

部会では畑の土づくりから学べて、作物の生長を見守ることができ、初めて人参の収穫も体験できて、とても感動しました。

収穫祭では、部会員皆で菌ちゃん野菜とお手製の味噌を使って豚汁を作り、来て頂いた方に振る舞いました。人参の味や歯ごたえをそのまま味わって頂きたくて、人参スティックも試食に出しました。どちらも野菜の味が濃くて甘く、美味しいと大好評でした。

私自身のように「美味しかったから育ててみたいな」と食べて知ってもらうきっかけになれていたら嬉しいです。

菌ちゃん人参の栄養価を調べてもらったところ、スーパーで一般的に販売されているものより、抗酸化作用のβカロテンの数値が高いことが証明されました。私達は野菜を皮つきのままで食べて欲しいという食育活動も行っています。

部会員は皆とても仲が良く、和気あいあいと活動していますので、気になった方は、お気軽に一緒に活動しませんか。

（春原明江）

菌ちゃん野菜まつりで紙芝居

菌ちゃんファンクラブ募集中

来年度は、皆様と一緒に生ごみによる土作りから野菜（人参、カボチャ）の栽培、収穫、調理をやりたいと思っております。我々、部員と一緒に楽しく学びませんか?

収穫したお野菜、種なども皆様にお分けしたり、菌ちゃんボカシ作りのレクチャー、家庭菜園での悩みなどもお受けします。菌ちゃんは、小布施町で大切に育てた天然菌（※）を採取して、それらを用いて栽培します。

※天然菌は乳酸菌、納豆菌、リンゴ酵母などの善玉菌。詳細は現場でお話します。

定住促進を考える部会　部会長　櫻井敏夫

小布施町の人口を増やそう

当部会は発足2年半、まちづくり委員会10年の歴史の中ではまだまだ実績の少ない部会です。当初は何から始めようかと悩みましたが、移住定住者が望んでいるのは小布施町の現状を知ることであると考え、それを探ることから始めました。

そこで転出者・転入者からアンケートを取ろうと考えました。従来から役場窓口では転入者のみに対応の、県の様式のものがありましたが、内容をより町に合ったものとするため内容に手を加えてお願いすることにしました。取り始めてまだ約2年ですが、最近まとめた結果は以下です。

【転出者】

1. 10～40歳代がすべてで、会社員・団体職員などの給与所得者が3／4でした。このうち町内出身者が5割で長野・須坂に移る人が6割と、結婚・就学のためや通勤・通学への利便性を求めていると推察します。

2. 転出に至った最大の要因は転勤・就職などでした。仕事が見つからない・住居に不満があったという理由もみられました。

3. 町の施策で欲しかったものは、①子育て支援教育制度の充実、②空き家空き店舗の活用、③宅地・住宅の整備、④大型商業施設・娯楽施設の誘致等が挙げられましたが、町出身者の割合が多いことから住居関連の意見には少々疑問が残ります。

空き家・空き店舗活用セミナー&無料相談会

社・医療関係の充実などがあげられています。

以上からすれば、転出者・転入者に共通するのは、①子育て支援と教育環境の整備が求められ、②住居（空き家を含む）の確保と宅地の整備に大きな関心があるようです。

最近の県から出された情報によると、この1年間の小布施町の人口の社会増（転入と転出の差）は＋29人であり、移住定住コーディネーターの活用などの施策が功を奏しているようです。さらには移り住みたい県としては、長野県が一番多いという調査結果があります。こんな気運があるなか、さらに移住定住を促進して行くことが必要でしょう。

以上の結果をみて移住推進には住宅問題の解決が直近の問題ととらえ、これを対策することといたしました。そこで町に対し、同様の課題を検討している組織が連携する、協議会の設置を提案しようとしています。この中には、所有者からの申告・相談が原則である空き家情報の収集を、対象の空き家について課税情報から所有者を割出しデーターベース化することが含まれます。住居の選択肢を広げることで、移住者のニーズに答えることができます。更にはこれを元に空き家マップを作成して、各自治会にかかわってもらい防犯・防災を計ろうとする内容です。また企業や商業施設の誘致による、働ける環境作りも今後検討すべき問題です。

注目すべきは、転出者の3割は将来的に町に戻りたい、転入者の2割は出身者だったことです。やはり小布施町は愛すべき故郷であると言えるでしょう。

移住定住による人口増加対策は多くの要素が絡んできます。その他の部会とも協調することも考えなくてはならないでしょう。さらにはまちづくり委員会だけの問題ではなく、町を挙げて考えなくてはならないことと考えます。町民の皆さんのご理解・ご協力が必要となるのです。

【転入者】

1. 40歳代までが3／4でしたが、50歳以上が残りです。全体の6割が近隣からですが、その他は県外などからの移住者で、ここに中高齢者は含まれるものと思われます。

2. 小布施に来た主な理由は、結婚を除けば転勤・転職が主で、生活するのに住居や自然環境が良いなどが決め手となっています。他と比較されて小布施に決められた方は4割おり、有意差があったのでしょう。

3. 今後の希望は、①子育て支援・教育環境の充実、②宅地・住宅（空き家・空き店舗を含む）の整備が主なもので、他には大型商業施設の誘致や福

共育を考える部会

部会長　元田和行

共育を考える部会は7年目

7年前

共育を考える部会はこの3月で70回目の部会を開きます。平成23年10月に第1回目の部会が開かれてからほとんど毎月開いており、7年目に突入しました。

毎回、部会内で議論を深めながら新しいアイデアや自分と違った角度からの意見に「なるほど」と考えさせられたり…。子どもたちと地域の人が共に育つまちづくりを目指して熱い議論をたたかわせています。

まちづくり委員会は発足より10年ですが、共育を考える部会は3年遅れて新たな部会として立ち上がりました。

その時の資料を見返してみると設立の趣旨として、「少子化、高齢化していくコミュニティにとって、東日本大震災は人との『つながり』を考えさせられた出来事でした。そのつながりを維持し、小布施町が今よりも住みやすく、人々がふれあう町になるには、そこに住む『ひとづくり』と未来を拓く子どもたちの『生きる力』の教育が必要です。教育（共育）はすべてのものの根幹を成すものです。

その教育（共育）の課題を少しずつ解決し、発展させていくことが、小布施の『まちづくり』を一歩前に進めることになります。『教育』はすぐに結果が出るものではありませんが、多くの町民の知恵と参加による小布施町の『教育（共育）』を考えていきたいと思います。」としています。

「教育（共育）はすべての根幹を成すもの」この意識は今もしっかりと部会員に根付いています。

小布施町の共育グランドデザインを作ってみました。

発足当時は、小布施町に保護者や町民が目標とする町の教育目標やグランドデザインが存在していませんでした。（現在は、町内の園長校長会で作成したものが存在しています。）私たち部会員はどこに向かって進んでいくことがいいのか、目標とするものが必要でした。そこで、自分たちでイメージした小布施町の子どもの共育グランドデザインを作成し、活動を開始しました。

おぶせ未来共育会議

おぶせ未来共育会議は昨年の11月に第6回目を開きました。保護者や地域の皆さんが教育に対する意識を高め、子どもを真ん中にした町民と地域が共に育つまちづくりを進めるために講演会や学習会を開いてきました。

毎回素敵なゲストを迎えて町民の皆さんと共に学んできました。次ページにこれまでの内容をまとめました。

コミュニティスクールの提言

平成26年3月にコミュニティスクール導入の提言書を小布施町に提出しました。提言は「幼児期からの子どもの育ちを支える地域をつくり、『子育てするなら小布施町』を

実現させます。そのために全町民が参加できる『地域とともにある学校づくり（まちづくり）』に向けた『小布施学園コミュニティスクール委員会（学校運営協議会）』の導入を目指す検討準備委員会を設置すること」を提言しました。この提言が発端となって現在、小布施学園コミュニティスクールが組織され、各園や学校に担当委員を置いて、学校の教職員と一緒に町民が学校運営や教育活動の支援を行っています。町民が小布施町の共育に参画し、その運営に責任を持つ仕組みを積み重ねています。そして「学校づくり」から「まちづくり」に大きく広がっていくことを期待しています。

【表1】おぶせ未来共育会議のテーマとゲスト

第1回 早寝・早起き・朝ごはんが育む子どもたちの未来
前橋 明さん（早稲田大学人間科学学術院教授／医学博士）

第2回 町長と語ろう　小布施町の共育
市村 良三さん（小布施町長）

第3回 みんなで育てよう 小布施っ子 社会力を養う
～心とからだと脳を大きく育てよう～
小岩井 彰さん（上田市立北小学校長 地球クラブ代表）

第4回 日本一いい保育園・幼稚園・学校、日本一素敵な町をつくろう
金子 郁容さん（慶應義塾大学 政策・メディア研究科教授）

第5回 みんなが笑顔になる挑戦～この学校は誰がつくるんですか？この町はだれがつくるんですか？みんなです～
映画「みんなの学校」上映会（町人権フェスティバルと共催）

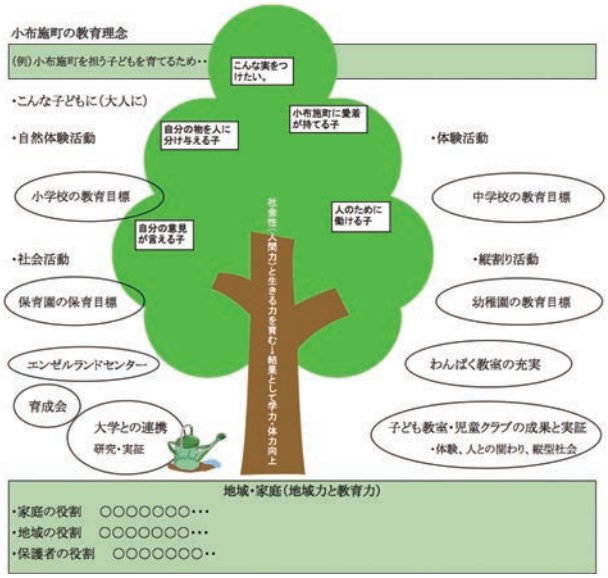
第6回 小布施の未来をつくる３つの心を育てよう!
齋藤　新さん（NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター事務局長）

とにかく自分たちで考えてやってみる

子どもたちの教育を取り巻く課題は複雑化しています。将来にわたって小布施町が持続可能なものとしていく必要もあります。そのためには町民の高い意識と共生の精神が必要です。私たち共育を考える部会は常に高い意識を持ちながら、「とにかく自分たちで考えてやってみる」ことをモットーに取り組み、その検証をして活動を進めてきています。左図の取り組みはその一部です。

- 幼児教育の重要性を確認するために飯田市の幼稚園に視察に出掛ける。
- 子どもの良さについて親に気づいてほしいので口頭詩を募集する。
- 外遊びの重要性を確認するために冒険遊び場のお手伝いをする。
- 幼児との触れ合いの重要性に気づいてほしいため、エンゼルランドセンターに出かけて若いお母さんたちと交流会を持つ。
- 幼児期の脳の発達の重要性や運動の重要性を確認するために講師をお願いして学習会を行う。

小布施町を含む多くの地域の共育の課題は見えています。その共育の課題は地域やまちづくりの課題と大きくつながっています。私たち共育を考える部会員は、他の部会と連携しながら、これからの課題に向かっていきます。そして、子どもも大人も共に育つまちづくりを目指していきます。これからも町民の皆さんのご協力をよろしくお願いします。



活動報告

H29	12/1	語らい座金田功子講師講演 ビデオ撮影
	12/20	運営委員会　ボイス19号計画案承認
H30	1/22	編集委員会 編集会議
	1/25	ボイス19号　原稿担当者へ依頼
	2/5	金田功子講師講演　ビデオ視聴
	2/6	運営委員会　ボイス19号確認、20号案
	2/20	ボイス19号原稿締切　編集作業開始
	3/2	ボイス19号原稿締入力作業開始

小布施まちづくり委員会 facebook の「いいね」が116件を超えました!

あなたも「まちづくり委員会」に参加しませんか!

様々な立場の人が自由に意見を交わし、住みよいまちづくりを考え実践する場として、平成20年にスタートしました。「安全」「環境」「福祉」「交流」「共育」「定住促進」の6つのテーマごとに部会を設け、月に1回くらいのペースで集まって活動しています。そんなまちづくり委員会にあなたも参加してみませんか。参加をご希望の方は、下記事務局へお申し込みください。

小布施まちづくり委員会事務局
Tel:026-214-9102　Fax:026-247-3113
E-mail: kouryuu@town.obuse.nagano.jp

編集後記

冬季五輪終了。喜び、感動の陰に裏方の人たちの苦労に感謝（安財）

※

これからの10年、高齢者の増加傾向で、安全・安心の避難誘導を考える必要が出てくるのでないかと思います。各自治会に広めて行ければいいかな？（塩尻）

※

小布施町の住処　暮らし心地　世代の譲り　心地どうですか　ずっといいねそーだねー　小布施モグモグいい年チーム（吉田）

※

新たな10年間を展望する「まちづくりボイス」、その編集に携われる幸運を再認識して、一層精進してまいります。（内山）

※

地道な活動が実を結びはじめた10年目。次の10年もまた地道に、淡々と。（奥田）